

# 千葉県立中央博物館生態園で人囮法により捕獲された アオバトシラミバエ

木村悟朗<sup>1),2)</sup>・尾崎煙雄<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>千葉県立中央博物館 共同研究員  
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

<sup>2)</sup>イカリ消毒株式会社技術研究所  
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜1-12-3

<sup>3)</sup>千葉県立中央博物館  
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

<sup>1)</sup>E-mail: aquat.insects@gmail.com

<sup>3)</sup>E-mail: ozakik@chiba-muse.or.jp

(受付日：2020年11月6日，受理日：2020年12月22日)

**要 旨** 千葉県立中央博物館生態園内で人囮法によりヒトスジシマカ *Aedes albopictus* の生息密度調査を行っていたところ，アオバトシラミバエ *Ornithomya aobatonis* が確認されたため報告する．2021年5月24日と9月13日に照葉樹林エリアから2個体，保存林とイヌシデ・コナラ林に挟まれたエリアから1個体の合計3個体を採集した．本種はヒトに誘引されることが既往研究から判明しているが，園内で人囮法により本種が確認されたのは初めてである．

**キーワード**：アオバトシラミバエ，ヒトスジシマカ，人囮法，モニタリング

シラミバエ科は吸血寄生性のハエ類で，成虫は雌雄とも鳥類あるいは哺乳類の体表に寄生する．日本からは11属27種が記録されている (Meißner *et al.*, 2020; 茂木, 2014)．千葉県におけるシラミバエ類の採集記録は，千葉県立中央博物館敷地内 (おそらく生態園) におけるアオバトシラミバエ *Ornithomya aobatonis* Matsumura, 1905 がおそらく唯一である (齊藤, 2021)．

著者らは2015年から生態園におけるヒトスジシマカ *Aedes albopictus* (Skuse, 1895) の発生状況を調査している (木村・倉西, 2016, 2019)．2021年は生態園におけるヒトスジシマカ分布の季節変動を明らかにするために5分間人囮法 (木村・倉西, 2019) で生息密度調査を行ったところ，シラミバエ類が複数個体混獲された．生態園内でシラミバエ類を複数個体捕獲したのは初めての記録となるので報告する．

## 材料と方法

生態園は房総の代表的な森や林，草原が再現され，9つのゾーンに分けられている．2021年は園内を50 mメッシュに区切り，合計21カ所で5月11日から2週間ごとヒトスジシマカの生息調査を行った．本報告をまとめる時点では9月13日までの調査を終了した．ヒトスジシマカは口径36 cmの捕虫網 (ポケット式新型 [シガ型] ナイロ

ン白紗付，株式会社志賀昆虫普及社) を用いて5分間人囮法で採集した．採集時間はいずれも9:30から12:00までであり，採集時の気温，湿度，照度 (10秒間の最大値)，および風速 (10秒間の最大値) は環境測定器 (LM-8000, Lutron Electronic Enterprise Co., Ltd.) でそれぞれ計測した．ヒトスジシマカと同時に捕獲したシラミバエ類は実験室に持ち帰り，実体顕微鏡下で，Maa (1967) の検索表で同定した．

## 結果と考察

調査期間中，合計3個体のシラミバエ類を捕獲し，それらはすべてアオバトシラミバエであった．齊藤 (2021) では千葉県立中央博物館敷地内 (おそらく生態園) で2020年10月29日に採集された個体が報告されているが，本記録は生態園で採集された初の確実な記録である．5月24日に照葉樹林エリア (調査地点a) および保存林とイヌシデ・コナラ林に挟まれたエリア (調査地点b) の2か所から雌1個体ずつ，合計2個体が捕獲され，9月13日に雌1個体が照葉樹林エリア (調査地点c) で捕獲された (図1)．

採集時の気象条件は，5月24日は照葉樹林エリア (調査地点a) では24.6°C，64.0%RH，659 Lux，保存林とイヌシデ・コナラ林に挟まれたエリア (調査地点b) では

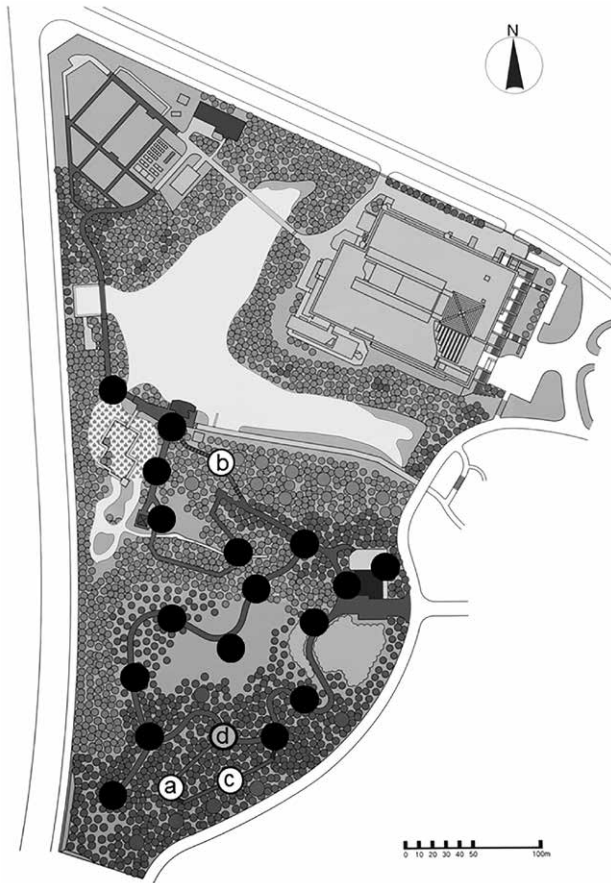


図1. 調査地点. a: 2021年5月24日照葉樹林エリア, b: 同日保存林とイヌシデ・コナラ林に挟まれたエリア, c: 2021年9月13日照葉樹林エリア, d: 2021年8月2日照葉樹林エリア, ●: シラミバエが捕獲されなかった5分間人囿法調査地点.

25.1°C, 67.5RH%, 789 Luxであり, いずれの地点においても採集時に風はなかった. また, いずれの地点でも5分間人囿法の4分から5分の間に飛来した. 9月13日は照葉樹林エリア(調査地点c)で27.5°C, 72.4RH%, 908 Luxであり, 風はなく, 採集開始から1分以内に飛来した.

なお, これらの記録に加え, 8月2日には照葉樹林エリア(調査地点d)で捕虫網の外側に止まったシラミバエ類を採集開始から1分以内に確認した(図1). 採集できなかったため, 種の特定には至らなかったものの, アオバトシラミバエは捕虫網の外側に止まる習性を示すこと(中山, 2010)や, 過去の千葉県立中央博物館敷地内における記録(齊藤, 2021)を考慮すると, アオバトシラミバエである可能性が高いと考えられる.

<標本データ(図2)>

2♀, 24.V.2021 [CBM-ZI 181611~181612], 1♀, 13.IX.2021 [CBM-ZI 181613], いずれも千葉市中央区青葉町(千葉県立中央博物館生態園)にて木村悟朗採集, 千葉県立中央博物館所蔵([ ]内は登録番号).

本種は鳥類寄生性であり(Maa, 1969), 日本ではノゴマ *Calliope calliope* (Pallas, 1776) やホオジロ *Emberiza cioides* Brandt, 1843 など28種から得られた記録がある(Mogi *et al.*, 2002). 生態園では166種の鳥類が記録されており(大庭, 2019), Mogi *et al.* (2002)で宿主として記録されている種も含まれていることから, 飛来した鳥類に宿主がいる可能性が高い. 鳥類の体表以外では, カラス類のねぐら付近で林内を相当数のアオバトシラミバエが飛翔していることが報告されている(中山, 2010). 生態園では1989年の開園当初からハシブトガラスとハシボソガラスが確認されている(大庭, 2019). 著者の一人である尾崎は, 2020年11月13日の日没直前に多数のカラス(ハシブトガラスおよびハシボソガラス)が生態園の照葉樹林上空を群飛している様子を動画撮影し, 2020年11月14日には日没後に照葉樹林内を探索し, 多数のカラスが樹木の枝に止まっていることを確認している. また, 毎日生態園内の巡視をしている警備員からの聞き取りによれば, 照葉樹林エリアでは連日夜明け前に多数のカラス類が集まっていることも確認されている. これらの事実から,



図2. 生態園で捕獲されたアオバトシラミバエ雌成虫(1目盛=1mm). 左:2021年5月24日(調査地点a), 中:同日(調査地点b), 右:2021年9月13日(調査地点c).

照葉樹林エリアがカラス類のねぐらとなりそこで発生している可能性が高いと考えられる。

発生時期としては、本種は5月から11月まで発生することが報告されており（中山, 2010）、本報告および斎藤（2021）の採集時期と概ね一致する。

本種のヒトへの誘引例（Mogi *et al.*, 2002; 中山, 2010; 斎藤, 2021）が報告されていることに加え、本調査の結果、カラス類の調査法である人囮法で採集されたことから、本種がヒトに誘引されること、本種の調査法として人囮法の有効性が示唆された。また、中山（2010）の調査時間は16時から19時まで（11月のみ12時から18時まで）であり、夕方に人囮法を行うことでより効率よく成虫が捕獲できる可能性がある。

斎藤（2021）の報告は、千葉県におけるアオバトシラミバエの初記録とされている。本報告では少なくとも3個体のアオバトシラミバエを照葉樹林エリアで捕獲しており、当エリアで本種の生息密度が急増している可能性がある。本種は野生鳥類に寄生するため採集や観察が困難であり、宿主などの生態についても断片的にしか知られていない（山内ほか, 2013）ため、生態園における本種の宿主の推定をはじめ、生活史に関するさらなる知見の集積が望まれる。

#### 引用文献

- 木村悟朗・倉西良一. 2016. 千葉県立中央博物館生態園におけるヒトスジシマカ成虫の生息状況. 千葉中央博自然誌研究報告 13: 77-82.
- 木村悟朗・倉西良一. 2019. 人囮法によるヒトスジシマカ成虫の飛来時間. 千葉中央博自然誌研究報告 14: 77-80.
- Maa, T. C. 1967. A synopsis of Diptera Pupipara of Japan. *Pac. Insects* 9: 727-760.
- Maa, T. C. 1969. A revised checklist and concise host index of Hippoboscidae (Diptera). *Pac. Insects Monogr.* 20: 261-299.
- Meißner, B.R., F. Rodríguez-Vera, O. Hawlitschek, W. Heim & M. Jentzsch. 2020. Incidence of louse flies on birds from the Russian Far East (Diptera: Hippoboscidae) and investigation of the status of some taxa by DNA barcoding. *Rus. Entomol. J.* 29(3): 327-335.
- 茂木幹義. 2014. シラミバエ科. 日本昆虫目録編集委員会（編）、日本昆虫目録第8巻第2部, pp. 743-747. 権歌書房, 福岡.
- Mogi, M., T. Mano & I. Sawada. 2002. Records of Hippoboscidae, Nycteribiidae and Streblidae (Diptera) from Japan. *Med. Entomol. Zool.* 53: 141-165.
- 中山裕人. 2010. 福岡市南公園で観察されたアオバトシラミバエの生活史の一端. *衛生動物* 61: 125-128.
- 大庭照代. 2019. 新版生態園の鳥チェックリスト. 15pp. 千葉県立中央博物館, 千葉.
- 斎藤明子. 2021. アオバトシラミバエのヒトへの飛来例. *房総の昆虫* 68: 99-100.
- 山内健生・島田拓・仲村昇・鶴見みや古. 2013. 家屋内におけるアオバトシラミバエの採集例. *都市有害生物管理* 3: 61-63.

#### Human Bait Sweeping Net Collection of *Ornithomya aobatonis* Matsumura (Diptera: Hippoboscidae) in Ecology Park of Natural History Museum and Institute, Chiba, Japan

Goro Kimura<sup>1),2)</sup> and Kemrio Ozaki<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Joint research fellow, Natural History Museum and Institute, Chiba

955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan

<sup>2)</sup> Technical Research Laboratory, Ikari Shodoku Co., Ltd. 1-12-3 Akanehama, Narashino, Chiba 275-0024, Japan

<sup>3)</sup> Natural History Museum and Institute, Chiba

955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan

<sup>1)</sup> E-mail: aquat.insects@gmail.com

<sup>3)</sup> E-mail: ozakik@chiba-muse.or.jp

We collected a louse fly, *Ornithomya aobatonis*, by human bait sweeping collection method for *Aedes albopictus* in the Ecology Park of Natural History Museum and Institute, Chiba. In this survey, we captured two female louse flies as bycatch for the first time in the park on May 24, 2021. Another female was obtained on September 13, 2021. It is known from previous studies that *O. aobatonis* is attracted to humans, but this is the first time that this species has been confirmed in the park by human bait sweeping collection method for *Ae. albopictus*.